

ご挨拶

北海道音響事業協会 理事長 中根 慶之 (ウィークエンド)

寒さが日増しに厳しくなる今日この頃ですが、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今年で第12回をむかえる「HSBA機器展」ですが、本当に多くの方々に支えていただいたからこそこの継続事業であると思っています。関係各位には心より感謝を申し上げます。

多くの方々がぜひともこの「HSBA機器展」に足をお運びいただける様にと願っています。

昨今、音楽業界もパソコン、モバイル普及により大きく変化しました。CDショップの減店、レコードメーカーは札幌から撤退。この事で道内の新人発掘に支障が出るのでは？そんな懸念をよそに、インディーズバンドは大手メーカーに依存する事なく、何とも簡単にCDを自主制作、自分たちのブログで宣伝発表までしてしまう。メジャーレーベルの必要性が問われる時代です。コンピューター化により流通会社はコンビニエンスストアでチケットを発売。希望のチケットを手に入れるために早朝からプレイガイドの前に列をなす光景も今は遠い昔。機器のデジタル化により「聴感上の心地よさ」「手仕事の優しい明かり」は波形でコントロールされてしまう。

コンピューター技師が音響、照明に従事する者達に取って代わる事はあるまいが、もしかするといずれマインドを置き忘れたような居心地が悪いライブが存在してしまうかもしれない。そうであってはならない。

体感したい人達が集うコンサート会場、観劇会場、イベント会場には熱気が有る。ざわめきがある。演じる側の興奮と足を運んだ観客の期待度と、その真ん中で冷静な対処を求められる裏方達の微熱。

これらを総じて「祭り」と呼んでも良いだろうか。太古の昔から人々は「祭り」に集う事で喜びを共有する。

共有は共感となり平和に繋がっていくものだろう。

昨今、「盆踊り」や「花火大会」にも騒音クレームを言う人がいると聞く。なんと淋しいクレームではないか……。

観光都市のこの札幌で、大通公園の使用方法が著しく不便になった。周辺住環境に配慮しての事だそうだが、札幌のド真ん中に住む事を選択した住人が静寂を望むものだろうか？札幌市観光課から「音量の上限値として、拡声器の直下から5M離れた地点で、限度75デシベル(決定)」と大通公園を使用する主催者側にお達しがあった。自動車がブ〜ッと走り抜けて、100デシベルではないか。

北海道の経済効果に一役買っていると言われる「RISING SUN ROCK FESTIVAL」主催者のウエスが今年の会期中に音量測定を行った。6会場の客席中央のPA席および固定ポイントにおいて、本番は3秒毎に音量の平均値、最大アークの測定を行い距離減衰測定を実施した。



同時に会場外でも移動ポイントにおいて測定も実施した。密室でない限りスピーカーからの音量、人の集まる騒がしさを消音できるすべはない。機械的にレベル規制を行ったとしても、感じるのは人の心であり、人の耳であるのだから限界値を割り出すことは難しい。つまりは譲歩が大きなポイントになってしまう。どう協力・理解してもらうのかにつけるだろう。

「RISING SUN ROCK FESTIVAL」において主催者は事前に各プロダクションへ平均音量に対する協力を呼びかけ、会場の隣接企業・地域住民にRSR実施のお知らせをおこなっている。それも万策ではない。

野外のイベントに必ずつきまとう大きな課題がここにある。



会員紹介

有限会社リスト 誌上インタビュー

今号は最近マスコミなどで取り上げられて知名度もUPしているリストさんをご紹介します

■代表取締役 森田寿彦さん

- Q 会社の紹介・業務内容の紹介などをお願いします
- A 1981年から録音スタジオとして地道にスタート。1990年、(有)リストとして会社組織とし現在に至ります。業務内容は、主に舞台機器等操作業務、PA・楽器・照明機材のレンタル・オペレートです。役員2名、社員3名(少なさ)、臨時派遣数名で頑張っています。
- Q 音響業界からみた道東の現状と展望についていかがでしょうか?
- A 今年は口蹄疫の影響で数々のイベントが中止になり、厳しい状態が続きました。なにしろ道東は牛がたくさんいますので景気回復と牛の健康をいのる日が続きそうです。
- Q 人材育成についてのお考えや取り組みについて…。また、業界志望者へのアドバイスがありましたら…
- A 人材育成ですか。あまり考えた事はないです。向き、不向きがはっきりしている業界なので、適材適所とゆうか安全第一…。人材育成の前に自分を育成したほうがよさそう。私にアドバイスを下さい(笑)



■エンジニア 西岡由貴さん



- Q 西岡さんの略歴と現在の担当業務を教えてください
- A 音更町出身、音更高校卒業。高校在学中の平成9年より当社でアルバイトを始め、その後入社。現在は音更町文化センターで舞台機器操作業務を担当しています。
- Q 仕事に対する心構えやスタンスは?
- A PAの際はミュージシャン等の出演者や来場者に対して「満足いただける音づくり」に努力してきました。また、文化センターに就くようになってからは、プロアマ問わず地元のカラオケ大会やピアノ発表会、講演会など様々な催しを通じて、出演者・スタッフ・お客様にとって準備や練習の発表の場・お客様には待ちかねた日となる「特別な日」なんだと痛感しました。それから毎日、出演者・スタッフ・お客様など全員のための「特別な日」を作るという意識で、仕事をしています。
- Q 今までの仕事の中で大変だったことや楽しかったことを教えてください
- A 大変だったことは、ツアーものです。長いものだと3週間ほど自宅を空けたりしましたが、女性としてつらい日もあれば、苦労したことがたくさんありました。しかし、そんな仕事の後の、先輩や仲間たちとの打ち上げが楽しかったです。おいしいビールが飲めるからお仕事も頑張れます!
- Q マスコミなどに取り上げられたことについて、何か反響や影響はありましたか?
- A 試験合格にあたり、地元新聞や地元情報誌に載りましたが、それを見て声をかけて来られる方々の大半が「おめでとう。で、その資格ってなに?」と言うんです。まだまだ巷では認知度が低いのが現状です。ある団体からは「発表会の照明をお願いしたい」とか、高校放送局からは「局員に講習会をしてほしい」とか、技能資格とは関係ないところで、何かを頼りにはされてるみたいです。
- Q 後輩や業界志望者へ向けてのアドバイスなどをお願いします
- A 自分自身は音響の専門学校へは行かずにこの職業に就きましたが、それでもやっつてはこれです。でも、平成19年、リストで10年の節目を迎えて「ここで初心に戻り、専門学校で習うこと、その他勉強をやり直そう」と技能試験に挑戦することにしました。結果3度目で無事合格できましたが、改めて知識・技術の習得には積極的に、そして、まずは「続ける」ことが大切だと思います。
- Q これからやってみたいことを教えてください(仕事でも趣味でも)
- A PAオペの際まだまだ未熟で不安ながらやっているので自信を持って出来るようになりたいです。

有限会社 リスト

〒080-0801

帯広市東1条19丁目1-1

◆電話;0155-25-9806

◆Mail;liszt@m2.octv.ne.jp

賛助会員紹介

会社の紹介と、城田社長から見た業界の現状や展望、人材育成などについて寄稿していただきました。

株式会社 楽器音響札幌 代表取締役 城田 均

賛助会員の株式会社 楽器音響札幌 城田です。

皆様方には日頃から大変お世話になっております事、この場をお借りしてお礼申し上げます。

拙い文章で誠にお恥ずかしい限りですが、寄稿させて頂きました。

私どもは昭和59年12月に東京都新宿区早稲田鶴巻町にあります株式会社 楽器音響の支援を頂き設立を致しました。それから早、26年が過ぎ、この26年間の思い出と申しますと素晴らしいお客様との出会い、信頼出来る商品を供給して頂けるメーカーの方々、それと当社の社員の方との過ごせた貴重な時間などが直ぐに思い出されます。

業界的には私は機材音痴ですから、ここで皆様にお話ができる事も特にございませんが、近年世の中に露出される商品の多くはデジタルになって来ております。

また、我々の業界もアナログからデジタルへと変化しておりますが、業界全体も、人間自体もデジタル的になってきたような印象を強く受けております。この現象が時代に沿って変化していることは決して悪い事ではないと思っておりますが、それは周りに気遣い、配慮があってこそ生かされることではないでしょうか。 デジタルの特徴として前触れもなく、突然音信不通になるのも特徴の一つではないかと思っております。皆様もお持ちの携帯電話で何度か体験されていることと思っております。

この事が日常の生活をしている時や商売をしている時に突然自分の身に降り掛かってきたとしたら、皆様は如何されますか？

先日、マスコミで騒がれた前厚生労働省 村木局長さんの問題などはその一例ではないでしょうか？

長年、積み重ねてきた信用や信頼というものが、心もとない自己保身や出世の為という短絡的な気持ちで阻害されたとしたらまことに残念なことであります。 商売は「世の為」「人の為」になっているかが存続する条件であると言われてきました。

それが今では自分さえ良ければいい、自分さえ儲ければ何をやってもいい、人の事は如何なっても関係がないと云う風潮があることが残念で仕方がありません。我々の業界は音、音楽、芸術を通して幸福感(しあわせかん)や心豊かになって頂く一端を担っていると言う、誇りと自覚を持って業務にあたって行きたいものです。

末文になりますが、貴協会のみまますのご発展と会員様方のご健勝をお祈り致して結びとさせて頂きます。



株式会社 楽器音響札幌

〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条5丁目3番23号 TEL 011-823-5851

楽器音響からのオススメ機材

Dx46  

FIR-Drive SOUND SYSTEM PROCESSOR



常に音響業界の最先端を走り続ける Electro-Voice®から優れた音響性能をもったデジタルシグナルプロセッサが発売されました。

Electro-Voice®スピーカシステムの能力を最大限に引き出す FIR-Drive Speaker Settingに対応

詳しくは楽器音響(担当 中村尚志)までお気軽にお問い合わせください

賛助会員紹介

株式会社 東京サウンドネットワーク

瀬野社長からみた業界の現状と
展望を語り交ぜながら
会社紹介の寄稿をいただきました。

株式会社 東京サウンドネットワーク 瀬野でございます。5年ほど前、お誘いをうけまして賛助会員の仲間入りをさせて頂きましたが、その間、業界発展のために特別貢献も出来ず大変申し訳なく思っております。
私共は、平成18年9月に長年お世話になりました東京サウンド 株式会社より独立しました。
社歴はまだ4年ほどですが、この業界に入り既に32年が経過しました。良くも悪くも、団塊世代の諸先輩方に可愛がって頂き(苛められ?)ながら現在に至っています。昭和53年、東京サウンド入社当時から見ると、物流形態が随分と変わり特に最近ではネットによる乱売が激化している事もあり「安ければいい」と言う傾向が顕著であります。そこには信頼関係も何もなく、現代社会の世相が表れているようにも思えます。
業界問わず商売をする上では非常に寂しい事ではないでしょうか。勿論、私共にも影響はありますが、振り回される事がないよう隙間(販路)を探しつつ人との繋がりを大事にして今後も活動していきたいと思っています。
今回は、会社案内という事で、現在弊社が主としています業務内容の部分的なところを紹介させていただきます。

【PA機器及び音響設備の主な納入先事例】



お寺本堂



幼・保関連 運動会など



小・中規模のライブ会場



冠婚葬祭 主に会場



幼・保関連 運動会など



小・中規模のライブ会場



国産ドラムメーカー「CANOPUS」の
北海道地区代理店をさせて頂いています。
最近は特に力を入れて販促活動中です。
お問い合わせはぜひ弊社まで・・・

取り敢えず、拡声に関するお問い合わせを頂いた所へは基本的に何処にでも行く事にしています。最近、映像(プロジェクター)機器の要望も多く、同時納入も増えてきました。この様な現場で、皆様から面白いアイデア、お勧め商品等のアドバイスを頂けたら幸いです。少しでも業界発展に尽力出来るよう微力ながら頑張りたいと思います。今後共よろしくお願ひ申し上げます。



株式会社 東京サウンドネットワーク
〒060-0062
札幌市中央区南2条西5丁目31 高杉産業ビル1F
TEL:011-261-8226 E-mail: suro@tan-sapporo.com

平成22年度 恒例 季節はずれの納涼パーティ

10月6日(水)キリンビール屋新館アーバン店にて
15名が参加して賑やかに開催されました。



北海道音響事業協会 会報 2010年 第12号

otogoto

編集長 加賀 芳弘(北海道共立)
編集員 富井 昭次(ジョーダウン)



編集後記

お忙しい中にもかかわらず快く取材にご協力
いただいた城田さん森田さん西岡さん瀬野さん
皆さま、ありがとうございました!